

「情報教育」「教育の情報化」推進をめざして

笠岡市立中央小学校 高橋 伸明

URL <http://hi-bridge.net>

mailto: nob@hi-bridge.net

1 はじめに

現任校へ転勤して2年目。私は今現在、校内の情報化推進を行う分掌の責任者でもありませんし、研究主任でもありません。正直言ってこの場へお集まりの皆様の方が、「リーダー」としてはるかにたくさんのご活躍をされているのではないかと思います。ただ、情報教育の推進や教育の情報化について、重要性や問題意識を強く感じながら日々の実践・研究に取り組んでいる一人であるという自負はあります。私なりに考えていることを伝えさせていただき、リーダーとなる皆様から忌憚のない御意見を伺うことが出来れば幸いです。

2 校内LANの設置は必須条件、しかし...

前任校（笠岡市立金浦小学校）での最後の2年間は、校内情報化推進の責任者であり校内研修のリーダーでもありました。

2000年4月の時点で「パソコン室」にはMS-DOSのコンピュータが10台余り、「ゲーム機」としての役割に疲れ果てたように鎮座していました。まずここから手を加え、子どもが学習の道具としてコンピュータを操作できる環境を学校独自で作りました。中古コンピュータ7台（その後11台に）を購入し簡易なLANを組み、それに子ども用プレゼンテーションソフトを入れ、「伝えたいことを分かりやすく伝える学習」を積極的に展開しました。極めて低スペックのコンピュータでしたが、そのようなことは使い始めると全く気にならなくなりました。

それと平行して職員室のLAN化を進めました。ほとんどの先生方がコンピュータで事務仕事をされていたので、プリンタやファイルの共有化は非常に魅力的な出来事。とても喜ばれました。

校内LANの設置、そして活用促進をめざした働きかけ、...。情報化推進リーダー・校内研修リーダーとしての大切な役目です。しかしここまでのことは、（多少コストは割高になるかも知れませんが）業者の方にもできることです。リーダーの最も重要な仕事は、ここから先、つまり学校教育の中へ身を置く者としての視点がなければできない部分にあると思っています。

それは例えば、「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査協力者会議、1997.10」に掲げてある「情報化に対応した教育」の、1)情報教育 2)学習指導における情報手段の活用 3)校務の情報化 について、校内の様子と具体的に結び付けながら伝え、区別して理解していただき、それぞれの方向性を示すことなどがその一つだと思います。

3 情報教育・教育の情報化推進のために私が心がけていること

(1) 質の善し悪しはともかく、いつでも人に語れるような実践・研究を手がけている

例えば「情報教育の授業を、1年に1回以上他の先生方へ公開し評価していただくこと」「全国規模の研究会等で1年に1回以上実践・研究発表をすること」等は近年目標にしていますし、実行もできています。自身の研鑽領域は情報教育であると思っているので、「情報教育を通して子どもを育て自分も成長する」というごく基本的な構えは、失いたくありません。

(2) Web上での情報収集・情報交換も大切だが、身銭を切って研修会へ参加することも怠らない

様々な情報が自宅や学校へ居ながらにして手に入るよさを享受することも、教育の情報化推進の中では欠かせない営みですが、「人」特に著名な研究者・実践者と「直接」出会うことで得られる情報量はその何倍にも相当します。文字情報を中心としたメディアからは得られないものを必ず獲得することが出来、それは自分の実践・研究に大きな影響をもたらします。

- (3) 「お金がないから は出来ない」と考えず、「お金を調達して をしよう」と考える

例えば我々教育関係者には、様々な財団が実施する教育・研究助成事業という、ありがたい制度の恩恵を受けることができる特典があります。お金をもらうことを目的にした助成申請は本末転倒ですが、1)実践・研究をより行いやすくし教育効果が高まる 2)自らの研究推進意欲が高まる 3)実践・研究成果を多くの方々に評価していただき、自身の力量が高まる 4)一人でなく数名での研究がしやすくなり、同士が増やせる 等のメリットが生まれます。

- (4)研究者・企業・そして行政機関へ積極的に働きかける

研究者は現場の実践者を指導しながら、その中で得られた事実やモデルを自らの研究にフィードバックしたり研究成果を世に提案したりします。企業にとっては利潤を追求することが最終的なねらいですが、そこに至るまでの過程では教員と同じ視点に立って議論もしますし、時には儲け抜きで現場を支援することもあります。教育行政の諸機関には、現場での教育効果を高めるための様々な支援体制が整えられています。我々教員は先にデメリットを計算するのではなく、必要であればまずは各方面へ積極的にアプローチし、自分たちの実践・研究へのサポートを得るために努力することが得策だと考えます。

- (5)県内外の方々をつながる

(1)～(4)等のことを通して知りあえる方々は、ずいぶん多数に上ります。情報交換や意見交流をオンラインであるいは直接出会うことによって、自身の力量を高めるだけでなく新たな教育効果やプロジェクトを生むこともしばしばあります。仕事がどんどん増えていくことにもなりますが、それはやりがい・楽しみを生む営みでもあります。私は情報教育関連の仕事を外部から依頼・紹介されたとき、よほどのことがない限り断らないことにしています。もちろん、いつもすばらしい成果があがるケースばかりではありませんが...

- (6)自らが情報制作・発信を実践する

子どもが情報制作・発信の活動に取り組むことが当たり前ようになった今、それを指導する我々教員も、当然同様な経験を積むことが必要だと考えます。例えば私は自分のWebページで仕事日記を掲載し、毎日更新しています。1)情報公開することによって、仕事に対する責任感や気持ちのハリが生まれる 2)Webページに公開すべき情報の在り方を常に考えながら記述するので、自らの表現を多面的にしかも短時間で吟味するコツがつかめる 3)見てくださっている同業者・保護者に、自分の教育観・意図を伝え評価していただくことができる 等、様々な意義を感じています。

4 おわりに ～子どもたちを情報社会のよき一員に育てるために～

文部科学省等の進める政策にかかわって、今「教育の情報化」という言葉の傘下で推進されているものの“トレンド”は「ITを活用した確かな学力保障」です。2005年の教室環境の中で行われるべき授業のスタイル、情報機器、デジタルコンテンツ、…。子どもたちが目を輝かせて取り組む「ITを活用した授業」がいつでもどこでもだれでも行えるというのは、とても有意義な話です。しかし思い違いをしてはいけないのは、こうした取り組みの多くは教科のねらいを達成するためのものであり、情報教育の事例が紹介されているケースは少ないということです。情報教育は子どもたちに「道具」の使い方を教える・慣れさせるための教育ではありません。推進リーダーの皆様には、ぜひ「情報教育」と「教育の情報化を生かした教育」との違いをはっきりと認識していただき、学校・地域でそれぞれの普及・推進に寄与していただければと思います。

最後に、私が情報教育の実践・研究を進めるときに、いつも“軸足”にしている考え方を端的に示した文を引用し、しめくくらせていただきます。

「折しも、情報教育の重要性が叫ばれ、情報教育を実施していない学校は皆無になった。

次のステップは、情報手段の学習から情報の内容と構成の学習へと移行することである。」

堀田龍也(2001):「新しい時代の基礎基本としてのメディア・リテラシー」

子どもの学力読本, 教育開発研究所, pp.43-46より